

様式（第5関係）

会 議 録

会議の名称	西東京市市民憲章検討委員会第4回会議録
開催日時	平成15年9月29日（月） 午後6時50分から 8時40分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎庁議室
出席者	三輪委員長、上田副委員長、塩月委員、藤川委員 （事務局）企画課 池澤主幹、櫻井主査、安藤主任
議 題	・市民憲章検討委員会第3回会議録について ・市民憲章の文案について
会議資料	(1) 委員による市民憲章の文案 (2) 今後の進め方等について
会議内容	会議内容の要点記録

発言者名	発言内容
三輪委員長	<p>開会 杉浦委員から退任の申し出があり、本日受理された。 残った4人で最後までいきたい。 また、本日、塩月委員が遅れる。 3人で過半数となったため会議をはじめ。</p> <p>(市民憲章検討委員会第3回会議録について) ・この内容で了承する。特段、何かあれば事務局に申し出てほしい。</p> <p>(市民憲章の文案について)</p> <p>各委員の文案について、各自補足しながら紹介</p> <p>提案にあたっての考え方 ・本文の4か条を4つのカテゴリー(安全・環境・文化・経済)で考えた。 ・「合併」より「一つの市であるまとまり」を前提にしたい。 ・生まれ育った場所、一生住み続けていく場所という意識が希薄なので、「郷土愛」を打ち出す。 ・本文の末尾を、進んでいくという気持ちをこめて「...なろう」とした。 ・市民憲章アンケートの結果を尊重し、キーワードを前文に、形容詞を本文に取り入れる方針とした。 ・合併という出来事について述べる必要はないと思うが、旧地名を取り入れようとすると、合併にふれないわけにはいなくなる。 ・歴史あるまちなので、その努力への感謝に近い気持ちをいれたい。</p> <p>発想もスタイルもユニークで異なったものが並んだので検討が深まると思う。どういう方向で収束させていくか考えていきたい。</p> <p>お互いの文案について感想を述べ合う</p> <p>意見交換の内容 ・「公共心の育成」は教育委員会の言いそうなことばではないか。 ・愛せるまちは押し付けではできない、「誇りある郷土」は一人一人が感じる事。 ・「多くの人々に親しまれ愛されてきました」というより、これからそういうまちになってほしいと思う。 ・「誓って」という言い方には、定めただけで投げっぱなしにはしないというような姿勢が感じられる。 ・縄文遺跡ということばは、オーバーな表現のように感じる、遺跡があるから何なのかともいえる、今後どうしていこうかという観点がほしい。 ・本文の末尾の「...したい」は、やるんだけど自信がないようなイメージ、やさしいというか少し弱い表現と感じる。 ・特定の固有名詞を入れたら市民憲章にならないのではないかと。 ・自然に偏りすぎる内容では、西東京市は自然だけという印象。「ひと」に向ける視点も必要。 ・本文の順番はかなり重要な話なので、内容を最重視して一番重要なものは最初にもってくるという方針がいい。 ・細かいことだが、市民憲章の他市の例でも、几帳面な都市では「前文」とことわっていて、これが本来の筋かなという気がする。</p>

・ワンセンテンスが非常に長い場合、目で追っているときは読みやすく内容が区切られているとしても、声に出して読んだときに、一般的な市民憲章のわかりやすさ・理解しやすさに及ばない気がする。普通市民憲章というと、中学生とか小学校高学年でも十分理解できる、もしくは唱和できるというような内容になっている。

(市民憲章の個性・独自性について)

市民憲章の個性・独自性を、どこの部分でどういう形で出すのかは、どこの都市でも苦勞している。一番はっきりしているのは「定型にしない」ことであるが、この委員会としては、時間的にもスタッフ的にも相当な苦しさがあるので、定型でやっていくことを最初の会議で決めた。

定型で、または、定型に近い形でいこうと決めた瞬間に、相当部分の個性は放棄せざるを得ない。

ただ、現実的には全国でも9割近くが定型で市民憲章を作っていて、そのなかで個性・独自性を出そうと努力をしている。どこの部分で独自性が出るかということ、前文の中に都市の由来などをいれる 本文の文章の内容ではなく「形」、どういう言い方にするのか 条文の数もある意味では個性といってもよい。

前文にはある程度当たり前のことも含めて、なるほどこれは西東京市の市民憲章の前文だなということが入るべきだろう。また、声に出して読んでみて息継ぎができるか、読んで気分がいいか。細かいことでは、短い文章なので、本文と前文、もしくは本文内・前文内の字句の重複はできるだけ避ける、こういうことを意識する必要がある。

(固有名詞について)

・「非核・平和都市宣言」をしているということを市民憲章にかくのは、ルール違反ではないか。宣言はある立場にたって、市民憲章とは違うものとして掲げているものである。市民憲章に関する説明か何かの中で、これは「～宣言」も意識して、制定過程でこう考えましたというのはかまわないと思うが、前文・本文に入れるのは抵抗がある。

・同様に、本文に「西東京市演習林」を入れることについても、そもそも本文に固有名詞を入れる例は非常に少なく特殊である。また、このことばは前文に入れるのも難しいと思うし、なおさら本文に入れるのはもっと難しい。

(まちの歴史の表現について)

西東京市、旧田無・保谷というのはどういう歴史のまちなのか、もちろん歴史上の大事業がおきたとか、重要な歴史的遺跡があるとか、歴史の教科書に何ページにもわたって紹介されるようなことがあったとか、そういう派しさはないが、そこそこに古くから多くの人が営々と暮らしてきたところだ、ということは書いてもいいのではないか。ただ、江戸時代に宿場町として栄えたという事実は確かにあるのだが、そう書くとそれ以前はどうなのかという感じもするので、いれてもいいが違和感もあるかなという印象である。

(縄文遺跡について)

・西東京の縄文遺跡は、今掘り出されているのはほんの一部だが、たとえば石神井川沿いの相当広い範囲で集落があったと推定されている。まだあまり知られていないが、このまちのメインにできる可能性と夢がある。

・今後発掘調査が進んで、学術的にも価値が高まったりして、実は市民憲章に書いてあったあれがたいへんなものだったという話にもなるかもしれない。そういう考えですと、なんともいえない感じがする。

・保谷に長年住んでいるが、あまり話題になった印象はない。

・こういう内容こそパブリックコメントで多くの人のご意見を伺うべきかと考える。我々だけの判断では難しい面がある。

・縄文遺跡は知らなかったことだが、何で市民憲章に関係あるのかという違和感がある。あえて市民憲章に入れる必要性を考えた方がいい。歴史的背景は入れたほうがいいが、市民憲章とこれは違うものだと思う。

・「歴史あるまちの市民」といったとき、歴史は何かということになると、歴史はどこにもあるが、このまちの歴史のルーツは縄文遺跡も残っているような古いまちの歴史だということを書いたほうがいい。

・そう書くと、確かに古い歴史なのだけれど、では縄文遺跡がメインなのかという話になる。宿場町だった時代、神奈川県に属していた時代などいろいろな背景がある。縄文遺跡にこだわる必要がない。「歴史」という形で留めておく方がよい。

・別の見方をすると、清瀬や小平などには縄文遺跡はないのかという話になると、たぶん西東京市だけではない気がする。その市の個性とか独特のものを入れるという趣旨だと、縄文遺跡といういい方が抽象的すぎて独自性をあらわしていることからはずれていくという気がする。

(まちを誇りに思う気持ちについて)

一般的にいうと、これは北海道の市民憲章に感じることであるが、なぜ市民が自分の住んでいるまちを誇りに思えるのか、なぜ愛せるのか、なぜ自分たちの父親・祖父など先祖を尊敬できるのか、それは北海道というのは歴史が新しいところが多く、こういう苦しいところでまちを拓いて、こういう目的でみんなが苦労してこうなったみたいところが綿々と前文に書かれている例がある。

だから、今回の西東京市の場合も素案にも出てきているように、愛したい、誇りにしたいという気持ちはあるが、それではたまたま今自分がそこに住んでいるからというだけで「誇り」というところまで一足飛びにいけるかというような話になる。

やはり、根拠というほどははっきりしたものではなくても、何も古ければいいというものでもないでしょうが、「ああ、なるほど」と思えるようなものがある方が、いい方向に働くとと思われる。

(本文を4か条にすることについて)

・何をどうしていくか、必要なことが盛り込めればいくつでもよいし、4つと決めれば4つでよい。前文は詳しく、本文は簡潔に4つでいい。

・4か条ですすめる。

(市民憲章の音読との関係)

市民憲章の唱和とか、声に出す場合、前文を読むかどうかというのは市によって異なる。本文だけを唱和するケース、前文も含めて唱和するケース、前文だけを別の人を読んで本文になってから皆で声を合わすケースなどいろいろである。実際、ものすごく長い前文だと、暗誦して皆で唱和といわれてもお経のようになってしまう。したがって、前文については音読を意識しないで説明文に近い意識で作成し、本文は声を出してとすれば、長い前文になってもよいのではないか。

(パブリックコメントのスタイルについて)

・2つの案を出してそれに対する意見を伺うスタイルにするか、かなり異質な感じのするものを2案または3案並べて、選択的な意味も含めて意見を伺うスタイルにするか、次回の会議で決めていきたい。

・本文のスタイルを決めてしまったほうがいいのではないか。

・確信のない考えだが、パブリックコメントの段階で、本文の末尾に対する反応が意外と多くなる気がしている。好き嫌いにかなり直結していることですから。我々委員はかなりの情報の中で話し合い検討していますが、パブリックコメントになると初めて見る人も多いただろうし、市民憲章がどういう印象で受取られるかわからないうえ、好き嫌いに近い根拠で判断されることもある。多くの方からこうしてほしいという意見が出されれば再考する部分もあるだろう。

・たとえば、前文については今日出てきた案もしくはそれより若干長いか短いか程度のものと、かなり詳しく意識的に長くした前文と2案考えてみる、或いは場合によっては前文なしに近いようなものもあるかもしれない。また、本文については、定型に近い方向性は決めており、4条に近い格好でということも決め事としたい。ただし、文言の表現とか、言いきる部分の形をどうするかについては、まだいくつかの案があるようなので、次回もう少し検討してみたい。

・本文の末尾は「...したい」と決めて、「自分たちがやるんだ」「人まかせじゃない」という意義を込めているという説明をつければよいと思う。

・パブリックコメントのとらえかた、方法はいろいろな考え方があると思うが、フェアにやるということであれば、趣旨を説明せずに投げかけた方がフェアという気がする。

・「...したい」に統一するとしたら何案も並べる意味がなくなる。パブリックコメントという機会があるわけだから、今無理に決めないで、多くの人の意見を取りいれて決める部分を残しておいてもよいのではないか。

(次回の会議の課題の確認)

委員各自が異なったスタイルの文案を2つ考えてくる。

・前文は、長めと短め(詳しいかあっさりしているか)で2案

・本文は、4か条で、雰囲気の違いを変えたものを2案

事前に事務局に送っていただきたい。

それをベースに突っ込んだ議論ができると思う。

(「非核・平和都市宣言」を入れることについて)

・他の市にないもの、ユニークなものをつくりたいし、皆に知ってほしいことから「非核・平和都市宣言」をあえて入れたい。

・はっきりしていることは、本来、宣言は其中で完結すべきもので、もしも宣言の内容を多くの方にアピールできないとしたら、その宣言をした意味がないことになる。そういった意味で、他でやるべきことを市民憲章にもちこむことが、ルール違反というよりエチケット違反なのです。それではこの宣言というのは、ここでもう一度そういった趣旨を述べないと多くの人にアピールできない内容なのかということになる。大きな趣旨として、だれもが平和であること、安らかな生活を望んでいるということは言わずもがなのことなのですけれど、こういう固有名詞に近いような他の試みをこういったところにもってくるというのは、その逆もあり得ないことである。ですから、たとえばどこかの都市宣言の中に市民憲章の趣旨に即してこの宣言をしているという事例は皆無である。都市宣言と市民憲章は別のものである。

(次回以降の日程について)

前回の会議での検討に基づいて、「今後の進め方等について」という予定表を作成し、配布している。事務局から説明。

閉会